がんばろう！輝く柏崎

大震災その後

大反響、支援サイト ネット売り上げ一億超

半年間に売り上げ1億円超——柏崎商工会議所の行った地震支援サイト「がんば716ショップ柏崎」(http://www.ganba716.net/) が、4月16日で一応終わった。地震から3か月後の10月16日に限定6か月でスタートしたが、全国的に大きな反響を呼んだので、引き続いてネットを開設している。

「被害の復興支援」には、ボランティア、支援金のほかに"地元産品の購入"もある」とのメールが届いたのが、きっかけだった。ページを持たない地元商店や企業の支援策として、会議所の運営で紹介などをする仕組み。6か月間のアクセスは、87万件と大きく予想を上回り、そして1億円超の売り上げとなった。

参加は53店で、300品目以上を紹介したが、関東を中心に全国各地から申し込みがあり、人気のベスト3は米・日本酒・海産物。ラジオでの紹介に、大阪の婦人会からコシヒカリ2kg入り150袋の大型注文やら、東京からは数回の受注ケースも。

ネットでの紹介は、今後もそのまま続けられる。問い合わせは、商工会議所内ショップ事務局（電話0257—22—3161、FAX22—3570）へ。

〈青海川駅建て替え〉「日本一海に近い駅」の新駅舎が、3月25日から利用開始した。鉄筋コンクリート建て平屋、約40平方m。海側の壁面には、駅名と波形、新潟県の地図が描き、正面入口にはステンドグラスをはめこみ、夕日の光を取り入れる。

地震では、高台の土砂崩落から信越線不通となったが、その土砂排除の重機を現場に入れるため、旧駅舎を撤去し、9月13日の開通以後は、仮駅舎だった。

また駅舎の傾いた荒浜駅も、リニューアル工事が終わって、25日から利用開始した。

〈観音岬にトンネル〉椎谷の国道352号・観音岬は、大規模な斜面崩壊で全面通行止中だが、5月14日からトンネル建設に入った。来年完成の予定で、全長885mをゆるやかなカーブで描く。工費29億円は、復興工事として最大。

〈柏崎駅前に復興住宅〉駅前通り裏の桑山木材跡地に得費9億円を可決した。4階（一部5階）建て5棟140戸、それに西山町に5階建1棟30戸を建設し、仮設住宅入居者を収容するが現在解体中で、来年8月完成の予定。

〈ベースボール・クリスマス〉日本プロ野球選手会が、12月23日刈羽村ラピカと刈羽中、24日柏崎市民プラザなどで開いた。**宮本慎也**会長（ヤクルト）以下12球団の若手選手25人が参加、キャッチボール大会など子どもたちと交歓した。

〈リケン復旧支援に7900人〉「工業人の集い」(2月7日)で、リケンの小泉年永社長は、カーメーカーの支援（7月19日—8月7日）を延べ7900人に達したと述べた。長岡、上越、小千谷のホテルに宿泊、手弁当でリケンや協力企業はもとより、近隣住民への協力もあったという。

また地震の被害は、機械1400のうち800に及び、仕掛けのピストンリング8%が廃棄処分に。しかし除去処分が、3年前の中越地震で450万本だったのに、120万本と大幅に減ったのは、落下防止ガード設置など地震の教訓を生かした対策のためた、と述べた。

〈福厳院再建第1号〉明治33年高田中学校柏崎分校として開校した福厳院（東本町1）は、本堂全壊などの被害を受けたが、3月23日再建の地鎮祭を行った。市内ほとんどの神社仏閣が被害を受けた中で、復興再建工事の第1号。中越地震で被害を受けて改修するため、寄付集めを始めているうちに再度の被害に遭ったという。22年完成の本堂は、木造2階建ての467平方m、工費2億1500万円の予定。

〈酒蔵の復活へ〉発生と同時に、空から被害の模様が伝えられた「越の誉」の原酒造。被害は、建物2万3千平方mのうち全壊3分の2、20億円にのぼった。新蔵の建設が、4月8日から始まった。延べ2千平方mの清酒製造工場、貯造場などで、52・5mの杭が37本打ち込まれ、9月から操業となる見込み。

地震被害データ

【柏崎市】▽死亡14（刈羽1）、怪我1644人

▽住居被害2万8251棟（全壊1114、大規模半壊675、半壊3879、一部損壊2万2583棟）

▽ライフライン被害=ガス3万9978戸、水道4万2260戸、停電2万2300戸（いずれも被災時）

▽施設被害2290億9900万円=住家・非住家1917億5600万円、公共施設39億2500万円、農林水産126億6600万円など

▽災害ボランティア計2万633人（市復興支援室のまとめ、5月1日現在）

【刈羽村】▽被害総額246億1790万円=住家・非住家156億円など

▽住居全壊166、大規模半壊136、半壊304棟（10月村議会への報告）

「赤レンガ棟」倒壊、一部を保存へ

昨年7月16日午前10時13分、ふるさと柏崎を襲った大地震で、旧日本石油柏崎製油所の「赤レンガ棟」も倒壊してしまいました。本『とっこつ』83、84号で実情を紹介し、保存の協力をお願いしていたのに、本当に残念なことでした。

その惨状を目の当たりにした時の気持ちは、今でも言葉がありません。

「赤れんが棟を愛する会」では、その後の対応を協議してきましたが、結論は解体撤去し一部保存で止むなしということになりました。

明治32（1899）年操業開始した我が国最古の製油所で、新潟県の近代化遺産にも指定されている貴重な産業遺産です。

しかし新日本石油は、すべて取り壊しを決定、解体工事が始まったところで、保存の市民運動が起こりました。『赤れんが棟を愛する会』も発足、東京でも有志による支援組織が結成され、署名募金活動が行われました。

その結果、保存の方向が決定、跡地の土壌改良工事の中で、「赤レンガ棟」だけが解体を免れ、一昨年11月にはライトアップも実現しました。また会田洋市長、市民参加の「赤レンガフォーラム」では、保存活用の熱い議論がされました。

柏崎としては、市民運動の結実した、数少ないケースではないでしょうか。

昨年6月、帰省した際には「日石跡地に市民会館を建設、それ以外は赤レンガ棟を中心として、すべて公園にする。そうすれば、災害時の仮設住宅用地にもなる」という、市長あての提案書を渡してきたばかりのことでした。

11月には、北九州市で開催された「赤煉瓦ネットワーク」全国大会に参加しましたが、門司、横浜、舞鶴など赤レンガを活用した街づくりが、誇らしく発表される中、私だけが"悲しい報告"をいたしました。

現在くしくも、市民会館が被災して使用できなくなったために、日石跡地が新市民会館建設の有力候補地にクローズアップされています。

柏崎駅前のシンボル「赤レンガ棟」はなくなりました。でも、「新市民会館」が駅前の新しいシンボルとなり、その一部に保管されている赤レンガが活用され、柏崎の歴史に永く残ることを期待しています。その日まで「愛する会」の活動は続きます。

「赤レンガ棟」の保存にご協力いただいた皆様に、心からお礼申し上げます。

（関正一郎＝高17）

追悼・復興の花火

地震の追悼と復興を願う花火が、1周年の7月16日と26日の「ぎおん柏崎まつり」大花火大会の2回、打ち上げられる。

大晦日の番組「ゆく年くる年」で番神堂鐘つきと同時に、花火打ち上げ基金計画が進められていたが、当日も翌元旦も強風大荒れで中止になってしまった。この基金は、予想以上の380万円を超えて、今夏2つに分けての実施となった。

蓮池さん、中大卒業 産業大の特任講師に

北朝鮮の拉致被害者・蓮池薫さん（高28）が、3月25日中央大法学部を卒業した。入学から32年かかった卒業式には、両親の秀量、ハツイさんと兄透さん（高25）も出席。式典後「横田めぐみさんは、中学校も卒業できないまま拉致された。帰ってこられない被害者の方は、やりかけたこと、やり終えないことがいっぱいあるだろう」と、事件の早期解決を要望した。

また新潟産業大学では、4月1日付で嘱託職員から専任教員（特任講師）として、辞令を渡した。

翻訳作業の方も続いており、3月に『もうひとり夫がほしい』(新潮社)と『母と旅した900日』(ランダム講談社)を出版して、13冊目を数えた。

鈴木監督を囲む会開く 野球OB会

選抜高校野球に出場してから6年目。母校野球部OBたちが、当時の**鈴木春樹**監督を囲む会を、3月に産業文化会館で開いた。

鈴木監督は、平成11年に佐渡・羽茂高から着任、4年目に甲子園出場となったが、昨年春県央工高に転任となった。このため7月に囲む会が予定されたが、地震で延期となっていた。

選抜出場メンバー11人全員をはじめ、関係者120人が集まった。OB会の新野京一会長（高22）が「夏の大会決勝で県央工と対戦するのを楽しみにしています」と述べた。

当時の深井浩司部長（佐渡高へ転任）から花束、またメンバーから記念のノックバットが、それぞれ贈られた。

北原氏、"日本語本"の出版相次ぐ

『問題な日本語』(大修館書店刊)の発刊以来、日本語ブームの"火付け役"となった北原保雄氏（高7、前筑波大学長）の関連書籍出版が、相次いでいる。

若者のローマ字略語を集めて、またまた話題を呼んだ『KY式日本語』(同)をはじめ『続弾！問題な日本語』、『みんなで国語辞典』さらに、『言葉美人の知的敬語』(KKベストセラーズ)などなど。

震災に敗けず、絆を強く

高9回

高9回（昭和32年卒業）は、「古稀を祝う会」を5月17日番神・岬館で開いた。実に7年ぶりの開催だが、合計48人（男子34、女子14人）が集まった。

終日文字通りの"五月晴れ"。開会の始まった会場から見はるかす海には、ちょうど夕陽の沈む時間。珍しいほど華やかな光彩を放った陽が、ゆっくり水平線を下りていった。振り向けば、夕暮れの空に稜線をくっきり見せる米山の雄姿。

我々にとって、おあつらえ向きの海と山の、懐かしい"原風景"に囲まれて、会は初めからに賑やかな盛り上がりを見せた。もちろん1年になろうとしている地震が、話題の中心。お互い無事を確かめ合う姿も、あちこちに見受けられた。

卒業から50余年。それぞれの人生に、それぞれの旅路。旧友の思いがけない一面を発見したりする、楽しみもあり、笑いの絶えない時間となった。

懐旧談義は、はてしなく尽きなかったが、最後は例によって「米峰突兀」で締め。歌い続けているうちに、いささかキー外れとなるあたりは、"老春"のご愛敬といったところであった。でも、久しぶりに腹に力を込めて歌った、清々しさは確実に残った。

なお、これに先立って昨年11月28日夜、関東圏在住の36人が、四ッ谷の「スクワール麹町」に集まって気勢を上げた。

（酒井良一記）

高3回

高3回（1951年の卒業）の同期会は、11月6日岬館で開かれた。地震に負けまいとする地元と、それを激励する来柏の友の44人が集まった。

被災の中心市街地と母校を、自らの目で確かめた後に参集。**萩野亨一**さんの生演奏による校歌斉唱に始まり、応援歌で閉じるまで、年齢を超えた熱気の中、夜更けまで楽しい時間を続けた。

高20回

60歳定年を前に共同通信社を退社、長野県黒姫高原の地に移り住むことになった藤田敏君を囲んで、高20回の仲間が送別会を3月17日夜、半蔵門のグランドアークで開いた。同期21人（男性16、女性5人）が集い、まず「なぜ黒姫行きなのか」の経緯が、本人から説明された。意外にも主導権は、ご本人でなくて、岩手県出身の奥さんにあって、それに従ったとのこと。1万平方mという、我々からみればうらやましい限りの土地である。

三宅均君の発声で乾杯。さらに藤島孝子さんの発声により、近藤史朗君のリコー社長就任の祝杯も挙げた（やや遅くればせながら）。

その後は仲間が順次、藤田君への壮行の言葉あり、近況報告ありと和やかに懇談した。我らが警視総監矢代隆義君、リコー社長近藤君からは、就任当時と現在の心境などもあった。久しぶりの再会で、当初誰だか分からなかったが、話を聞くうちに「ああ、思い出した」で、愉快な場面も。

最後に藤田君が「仕事柄危険な国にも出掛け、仲間も何人か殉職されている。実際に、我が身に危険を感じたことも多々あった。ちょうど今日は58歳の誕生日にあたる。その日にこのような機会を作ってもらって、本当にうれしい。これからは、ブルーベリーなどの畑作りに励みたい」と述べた。

先輩諸兄からみれば、まだまだ58歳。されど58歳。高校を卒業してから40年。みんなそれぞれの人生を歩んで来た。藤田君の黒姫での生活に乾杯！ そして東京にあって、これからも仕事に励む仲間に乾杯！ の一夜であった。

（重藤久美子記）

出席した人たち

[高3回]（右から）（1列）故阪本芳男、入沢喜夫、小松川正義、小川重雄、相澤陽一、石坂徹雄、飯塚英人、五十嵐晧之、中村健一、坂西一國、新沢一哉、浅野幸男（2列）萩野亮一、星野徳太郎、桑山龍男、吉田光吉、遠藤昭司、小山祥三、高橋誠一、仲野照也、三井田昭治、会田秘三、長谷川昭男、遠藤和夫（3列）駒野庄平、押見博、田中保夫、種岡善次郎、小林寛、三浦利男、柳生雅幸、内山亘、歌代耕治、澤四郎、阿部健一、小林良、矢川悦郎（4列）服部昭雄、五十嵐禮次郎、赤間嘉幸、丸山庸、西川利雄、松田秀明、名塚義英。

【高9回】青木一実、赤松正子、浅井不三夫、阿坂修二、新野洋三、石黒完治、猪浦正雄、入澤英尚、江口修、大掛俊明、大掛幸雄、岡嶋保則、片山利一、河合富子、木村慶子、桑山恵一、行田直江、近藤久雄、酒井良一、桜井良明、佐々木以文、三宮克弘、品田武彦、篠田彰、霜田英男、下村恭一、白川淑子、関勝彦、高橋佐樹朗、竹田正明、田中玲子、田辺健、田村美和子、大阪由子、津畑タマ、遠山進、名塚幸弘、西山和子、平野正隆、藤井嘉之、星野輝夫、丸山やす、丸山雪子、三井田礼子、村山正樹、村田喜美子、与口義雄、渡辺郁。

【高20回】（前列）石井正一、加藤れい子、矢代隆義、藤田敏、藤島孝子、福山義男、中川房世（後列）水野義雄、三富敏勝、三宅均、重藤久美子、山田悦郎、棚岡滋、前川守、森本正子、赤澤茂、今井清、関恒夫、古川和夫、近藤史朗、上杉茂樹。

小林町長6選 出雲崎町長選

任期満了にともなう出雲崎町長選挙は、1月27日行われた。現職の小林則幸氏（74）が、前町議会議長の**高橋速円**氏（59）に圧勝、6選とした。

また町議補選で、**宮下孝幸**氏（53）が初当選した。

当2470　小林則幸　無現
　1204　高橋速円　無新

◆県教委異動（3月24日）

【転任】▽有恒教頭へ遠山千勇（小国分校教頭、国語）▽長岡大手へ田中哲夫（国語）▽高田農へ戸川聖子（同）▽小千谷へ阿部ともえ（地歴公民）▽松代へ江川慎也（同）▽新井へ関矢等（数学、高25）▽長岡明徳へ平野瑞恵（同）▽長岡大手へ小川浩（理科、高41）▽松代へ樋口信（保体）▽柏崎工へ高橋保夫（同）▽長岡商へ高橋玲子（英語、高25）▽出雲崎へ鈴木光二（庶務係長）▽新発田商へ伊藤広美（主任司書）

【退職】中村朗（事務長）

【転入】▽津南から加納直恵（地歴公民）▽羽茂から金子晴之（数学）▽高田から藤縄崇（理科）▽柏崎総合から金井広喜（保体）▽小千谷西から大滝和則（英語）▽小千谷から鎌田讃（同）▽新採用佐藤紗和子（国語）▽新採用菅卓（地歴公民）▽長岡明徳から重住富雄（事務長）▽柏崎振興部から須田礼子（庶務係長）▽新採用青野洋子（司書）

心の故郷・柏崎へ 戦中戦後の思い出

阪本　芳夫

高3回卒の同期会を、11月5日柏崎で開催する計画が、地元の幹事諸兄から伝えられてきた。私たちは、戦時最末期の昭和20年に旧制中学に入学した。中学、高校各3年と、6年間の教育を受けて、心身共に伸び盛りの十代の成長期を過ごした。

入学当時、3年以上の上級生は勤労動員で工場に通い、4年生は他県の軍需工場に動員されていて、通学生は2年生と私たち新入生だけだった。他県では既に空襲にさらされ、勉強どころでなかった都市が多かった。幸いなことに柏崎では、旧制中学の英語を含めて、全ての教科を学べた。

敵性語と言われた英語もしっかり授業があり、なぜ英語を学ぶかについて、**藤森環治**先生は「敵を知り己を知れば百戦危うからず」であると言われ、私たちは「トゥインクル トゥインクル リットルスター」の曲でABCDを歌い、「ディスイズアペン」から始めた。

物象（物理・化学）、数学（代数・幾何）、国語（古文）、漢文、東洋史を一通りを教室で受けることが出来た。校庭で分列行進などの教練もあり、防空壕掘り、理研工場への勤労動員、警戒・空襲警報のたびに、教室を飛び出して防空壕に退避の生活だった。

私は信越本線下り安田駅の奥、加納からの汽車通だったので、入学からその年の夏休み中に敗戦を迎えるまでの一学期の生活は、記憶の中でもかなり濃い印象を留めている。

動員に出ていた広島二中の1年生は、原爆で全滅したと、後で聞いたのだが、同年であるので胸に深く残った。駅ホーム端には、機械油原料をとるヒマが植えられ、明るく咲くヒマワリの花に並んで大きく育っていた。

2学期には、進駐軍が市内に入り、私たちは郊外三方に別れ、野山の開墾作業に自宅から直接通う生活が始まった。信越本線では、引き揚げ列車にもよく同乗し、日に数本の列車は常に満員、機関車や石炭車に度々乗った。市内の商店街は、配給制でほとんど営業していなかった。長岡空襲（8月1日）の後、次は柏崎だと疎開を始める家もあった。その時終戦となった。

私の柏崎は、まずこの中学・高校の6年間の敗戦前後の体験の中にある。卒業後の生活は、廃墟から復興途上の東京に移った。しかし、私をつくった柏崎は、刈羽三山を背に、鵜川と鯖石川の間の豊かな平野を中心に、日本海に面して大陸に相対している歴史のある都市として、常に胸の中に住んでいる。父祖の魂は鯖石川流域のほとりに眠っているのである。東京生まれでも、加納・柏崎は心の故郷である。（中略）

昨年7月16日「海の日」。テレビを見ている時に、柏崎の災害に画面は変わった。ヘリコプターから、原発の黒煙、倒壊家屋の屋根、青海川駅の崖崩れ。しかし地上の様子が、どうもわからない。友人たちに電話をするが繋がらない。この世は、思いもかけず、いつ何が起きるかわからないと、思った。柏崎を見ていて、災害で孤立した懐かしい街を思った。幸い火災はない。しかし、全く音信不通。通信というインフラについて思いめぐらせていた。

そして今、柏崎が叡知と努力で復興していくことを祈っている。同期生たちは、へこたれるものかと奮起して、予定の同期会を予定通りの日、岬館で開催。関西からも馳せ参じ、44人が励ましの集いに顔を合わせた。（『越後タイムス』1月1日号より、一部省略）

阪本芳夫氏（藤沢市、本名芳男）は、3月4日脳梗塞で死去、76歳。画家の故**阪本文男氏**（高5）は実弟。

"出前授業"六氏のコンテ

後輩たちの進路や将来のヒントに——高10回生の在校2年生への〈課外授業〉は、108年の歴史を誇る母校にとっても、恐らく初めてであろう。講師とコンテ次の通り（敬称略）。

☆**金子章子**（老人保健施設の看護師）「生命に寄り添って」＝シュバイツァーの伝記を読んで、大学へ進学し看護師になった。本当に弱っている人、苦しんでいる人に寄り添いながら生きたいと、願って勤めている実情について。

☆**滝沢東彦**（元朝日新聞記者、現在日本近代史を勉強中）「見る、聞く、考える、書く…新聞記者の仕事」＝経験した記者の仕事で思うことについて。

☆**中村眞一**（航空管制技術官、運輸多目的衛星製造打ち上げプロジェクトリーダー）「初の衛星『ひまわり6号』打ち上げに参画して」＝人工衛星、航空管制、気象衛星について。

☆**吉浦春樹**（三井化学で、技術輸出など経て、子会社の社長）「世界を相手に…化学技術者の会社生活」＝独留学はじめ、シンガポールでの社長など、43年間にのべ80回の海外出張、30か国以上を訪れた体験について。

☆**吉野尚也**（東京女子体育大教授）「ヤル気を生む8つの要素」＝中学、高校教師、都立高校校長を経験して、目標の明確化、方法の具体化などについて。

☆**若山利文**（元在日フランス大使館勤務を経て、会社社長）「発想の転換と不退転の勇気で、問題解決を図ろう」＝医療機器関連分野で、日仏、日米合弁など15社を設立、経営してきた経験について。

東京税理士会顧問 日本税理士会連合会相談役 税理士 関本和幸（中45） 税理士法人トップ会計事務所 新宿区西新宿七—一八—一八 電話（三三七一）七二一一

税理士 高橋吉司（高12） 横浜市中区野毛町三—一三一 コスモ桜木町グランシール211 TEL 〇四五—二六一—六五〇五

水野公認会計士事務所 税理士 公認会計士 水野義雄（高20） 渋谷区神宮前六—二九—四 リヴィエール原宿702 電話（五七七八）六五五三

アジロヤキ くろようかん 新野屋 新野京一（高22） 柏崎市駅前一—五—一〇 TEL（二一）三三七

公認会計士・税理士 武田茂（高23） 千代田区九段北四—一—一 九段一口坂ビル8F TEL（三二二一）八八〇八

税理士 佐藤正幸（高20） 港区六本木三—四—二五 メゾン六本木501 TEL（三五八九）一六四一

中越沖震災からの復興をめざす インターネットショッピングモール がんば716ショップ 柏崎 ふるさとからのお取り寄せで復興支援を！

柏崎商工会議所 柏崎市東本町1-2-16 TEL0257-22-3161

総合建設業 東北工業株式会社 代表取締役会長 桑山雄（高16） 柏崎市鏡町五—一二

角田建設株式会社 有限会社 角田不動産 代表取締役 角田一成（高10） 柏崎市松美一—一—五一 電話（23）三六三八

株式会社 植木組 取締役会長 植木康之（高15） 取締役社長 植木義明（高23） 新潟県柏崎市新橋二番八号

新潟清酒 銘酒 越の誉 原酒造株式会社 柏崎市新橋五—一二 東京営業所 板橋区徳丸七—一六—五 TEL（三九三五）一六一一

株式会社阿部建設 社長 阿部尚義（高35） 会長 阿部弘一（高7） 柏崎市比角二—三—二六 TEL（23）4173

学校法人 中延学園理事長（明優学院高等学校） 佐藤早苗（高5） 品川区西大井六—一—一三 電話（三七八四）二一三一

ガス化溶融リサイクル施設 シモダ産業株式会社 社長 霜田彰（高18） 柏崎市松波二—七—一四 TEL（二二）五二四〇